

IL-6の上手な使い方

～診断, 病勢評価,
そしてHemofilterの選択に～

日時

2024年10月19日(土) 12:20~13:20

会場

第2会場 甲府記念日ホテル1F 「昇仙閣 南」

座長

土井 研人 先生

東京大学大学院医学系研究科 救急・集中治療医学

演者

服部 憲幸 先生

千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学
千葉大学医学部附属病院 人工腎臓部

ランチョンセミナー参加方法

フードロス削減のため、ランチョンセミナーは事前申込み制(お弁当)となります
学術集会参加登録時にホームページからのお申込みをお願いします

詳細は学術集会ホームページにてご案内いたします

学術集会ホームページ: <https://plaza.umin.ac.jp/jsbpcc35/index.html>

事前申込み期間: 9月24日(火)~10月9日(水) 正午

当日も受け付けますが、所定の人数に達した場合には入場できない場合があります
ことをご了承ください



学術集会ホームページはこちら

IL-6の上手な使い方

～診断, 病勢評価, そしてHemofilterの選択に～

千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学
千葉大学医学部附属病院 人工腎臓部
服部 憲幸



Interleukin-6 (IL-6) の迅速測定は, かつて一部の大学病院などでのみ行われている特殊な検査であった。しかし, より簡便に測定可能な機器が開発され, さらに2021年に「全身性炎症反応症候群の重症度判定の補助」を目的としたIL-6の測定が保険収載されたことで一般病院にも門戸が開かれた。保険収載を契機にIL-6の迅速測定を開始した施設も多いと思われるが, 測定すべきタイミングや結果の解釈をつかみかねている方もおられるだろう。演者は研修医として働き始めた日からほぼ毎日IL-6を測定し, 解釈を重ねてきた。本講演では演者の経験から最適化されたIL-6の使い方について紹介したい。

臨床現場においてIL-6が特に有効な場面は, ①隠れた敗血症の診断, ②初期治療の効果判定, ③急性血液浄化法の早期導入の判断, ④Hemofilterの選択の4つである。診断と病勢評価の場面において, IL-6は単独で重大な情報をもたらす。敗血症の中には典型的な臨床症状を示さず, 初療時に診断することが難しい症例があるが, IL-6異常高値により敗血症を早期診断できた経験は稀ではない。また, 身体所見や一般の血液検査からは初期治療が奏功していることを実感できない場合でも, IL-6が予測通りに低下しているときには特段追加治療を行わなくても数日後には改善に向かう場合が多い。逆にIL-6が期待どおりに低下しない場合には, 初期治療に問題があると考え, 診断の見直しや治療強化を検討している。急性血液浄化法の導入判断や施行方法の決定(主にHemofilterの選択)に際してIL-6が重要であることは本学会で繰り返し議論されてきた通りである。IL-6が異常高値の場合にはすでにKDIGO基準でStage3のAcute Kidney Injury (AKI) であることが多い上, Stage3未満の場合も経過中により高いStageに進行し, 最終的に血液浄化法が必要となることが多い。サイトカイン吸着に優れたHemofilterは尿毒症性物質の除去能や除水性能に関しても十分な性能を備えており, IL-6が異常高値を伴うAKIに対しては第一選択としている。Polymethylmethacrylate (PMMA) 膜HemofilterはIL-6の除去能に優れているため, IL-6の除去を企図する場合には第一選択のHemofilterであると考えている。